

軍神—近代日本が生んだ「英雄」たちの軌跡



[軍神—近代日本が生んだ「英雄」たちの軌跡 下载链接1](#)

著者:山室 建徳

出版者:中央公論新社

出版时间:2007-7

装帧:新書

isbn:9784121019042

かつて「軍神」と呼ばれる存在があった。彼らは軍国主義的思潮の権化として意図的に生み出されたわけではない。日露戦争における廣瀬武夫少佐の例をみればわかる通り、戦争によって強まった日本人の一体感の中から、期せずして生み出されたのである。だが、昭和に入ると、日本人が共感できる軍神像は変化し、それは特攻作戦を精神的に支えるものとなる。本書は、軍神を鏡として戦前の日本社会の意識を照射する試みである。

作者介绍:

山室/建徳

1954(昭和29)年、東京生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程中退。帝京大学理工学部講師(本データはこの書籍が刊行された当時に掲載されていたものです)

目录:

[軍神—近代日本が生んだ「英雄」たちの軌跡 下载链接1](#)

标签

日本

日本史

近代史

潛水

日俄战争

战争史

评论

引用史料相当丰富。可以发现比较有趣的一点，明治时期的日清日露战争明显有功利的色彩，一开始就有较强的目的性，战争只是取得一定利益和目的手段，条件谈妥便可

议和收场，不会把对方逼向死地。然而昭和的战争却完全相反了，不但没有目的，宣扬英美如何“鬼畜”呈现的是一种试图与西方对抗的日本主义，显然是精神性的。与日清、日露战争的军神不同，十五年战争中诞生的军神已经平民化，平凡青年为国为家献出生命的故事特别能激起日本人的感动，“九军神”、“爆弹三勇士”，最后到冲绳战役的神风特攻队达到了极致，小说《永远的零》之所以火爆，大概也与日本人的这种观念密不可分吧，不过对战争本身的思考往往会被忽略。

[軍神—近代日本が生んだ「英雄」たちの軌跡](#) [下载链接1](#)

书评

[軍神—近代日本が生んだ「英雄」たちの軌跡](#) [下载链接1](#)